

平成22年1月29日

各位

上場会社名 新和海運株式会社
 代表者 代表取締役社長 寛 孝彦
 (コード番号 9110)
 問合せ先責任者 企画グループリーダー 井原 隆史
 (TEL 03-5290-6291)

業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績動向を踏まえ、平成21年10月30日に公表した業績予想を下記の通り修正いたしましたのでお知らせいたします。

記

(金額の単位:百万円)

平成22年3月期通期連結業績予想数値の修正(平成21年4月1日～平成22年3月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	90,000	3,800	3,000	1,000	6.18
今回発表予想(B)	94,000	4,600	4,000	1,200	7.41
増減額(B-A)	4,000	800	1,000	200	
増減率(%)	4.4	21.1	33.3	20.0	
(ご参考)前期実績 (平成21年3月期)	132,799	13,168	12,498	6,689	41.31

平成22年3月期通期個別業績予想数値の修正(平成21年4月1日～平成22年3月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	71,000	2,700	3,200	1,400	8.65
今回発表予想(B)	75,000	3,300	4,000	1,300	8.03
増減額(B-A)	4,000	600	800	△100	
増減率(%)	5.6	22.2	25.0	△7.1	
(ご参考)前期実績 (平成21年3月期)	109,261	12,131	12,608	6,561	40.52

修正の理由

第4四半期の業績は、世界経済が緩やかな回復基調にあるなかで依然として増加傾向を示す中国の鉄鉱石輸入量等を背景に、外航海運市況はケーブ型撒積船を中心に足元では堅調に推移しているものの、先行きは不透明な状況です。

世界の造船竣工量は昨年後半より従来を上回るペースで増加しており、それら供給圧力は海上輸送需要の伸びを上回ることが予想されるため、船腹需給の緩和による海運市況の悪化が懸念されます。また外航海運業にとって大きな損益変動要因である為替相場の円高懸念、燃料油価格のさらなる上昇懸念も払拭できません。

このように事業環境の見直しには不透明感が強いことから、当社の事業基盤を強固なものとするべく船隊の競争力強化を一層推し進めることが良策との判断に立ち、高額長期用船の早期返船を実施することを決定致し、用船解約金等約29億円を特別損失として計上する予定です。

こうした環境下、平成22年3月期の業績予想につきましては、第3四半期までの成績を踏まえ、平成21年10月30日付け「業績予想の修正に関するお知らせ」にて開示した予想数値のうち、売上高・営業利益・経常利益は連結・個別とも上方修正いたします。また当期純利益につきましては、単体業績予想は上述の理由により下方修正いたしますが、連結業績予想は上方修正いたします。

なお、平成22年3月期の期末配当につきましては、本日付けで別途、「平成22年3月期 配当予想の修正に関するお知らせ」を開示していますので、併せてご覧ください。

※第4四半期(1～3月)業績予想の前提

対米ドル円換算率 今回: 1ドル=90円 (前回: 1ドル=90円)
 燃料油価格(内地C重油) 今回: トン当たり500ドル (前回: トン当たり465ドル)

注) 上記の業績予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は、今後様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。

以上